

## ◆医師の異動（9月）

■退職（H29.9.30付）

副院長 亀崎 洋（かめさき ひろし）

## ◆地域医療従事者研修のご案内

### ■第2回緩和ケア講演会

日時：平成29年10月5日（木）17:30～19:00  
会場：市立長浜病院 講堂  
テーマ：がん患者さん・ご家族の意志決定支援  
～コミュニケーションの実際～  
講師：市立大津市民病院 緩和ケア科  
臨床心理士 笹田 侑子 氏  
参加費：無料 定員：40名 申込締切：9月22日（金）  
問合せ先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）

### ■第290回 開放型病床生涯教育研修会

日時：平成29年9月7日（木）17:30～19:00  
会場：市立長浜病院 講堂  
テーマ：「慢性呼吸器疾患～吸入療法について～」  
講師：市立長浜病院  
呼吸器内科責任部長 野口 哲男  
問合せ先：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

## ◆図書室の利用について

当院の図書室は、地域医療支援のため近隣の医療関係者（医師・歯科医師・薬剤師・看護師・コメディカルなど）の方々にも図書室を公開していますのでご利用ください。

詳細については、当院ホームページ（図書室のページ）をご覧ください。http://www.nagahama-hp.jp/



本館2階 図書室

## ◆地域医療連携室からお知らせ

循環器内科 高島医師、腎臓代謝内科 森田医師の予約が混雑し3週間程度の待ちが生じています。ご迷惑をおかけいたしております。  
緊急性がある場合など地域医療連携室にご相談ください。  
なお、各診療科の若手医師も病診連携に関心を持っておりまして、どうぞよろしくお願いたします。

## ◆放射線科(診断)からのお願い

紹介患者さんはまず紹介窓口にて受付をお願いしておりますが、直接放射線科の窓口に来院されるケースが増え患者さんにご迷惑をおかけしております。  
当院としても来院場所の案内方法を検討しておりますが、紹介元医療機関のスタッフの方からも来院後は紹介窓口2番での受付をご案内いただきますようお願い申し上げます。



紹介窓口 2番

## ◀◀◀ 編集後記 ▶▶▶

空日中はまだ蒸し暑い日が続きますが、朝夕は少し過ごしやすくなり、ススキの穂が出てきたりと少しずつ秋の気配を感じます。異常気象が続いていますがこの秋からは穏やかに過ごせることを願いたいものです。

Pink-Bu



救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院

# 市立長浜病院 地域医療連携だより

理念  
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」  
を発展させ、地域完結型の医療を進めます。

平成29年9月1日号 No.153

市立長浜病院ホームページ

http://www.nagahama-hp.jp/

市立長浜病院 検索



市立長浜病院患者総合支援センター 地域医療連携室  
〒526-8580 長浜市大成亥町 313 番地  
TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。9月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## ◆嚥下委員会の取り組みについて～多職種協働で行うチーム医療をめざして～

歯科・歯科口腔外科責任部長 家森 正志



「食べること」は生命に直結するため、患者さんの尊厳や意向を最大限尊重するべきだと考えています。とくにEnd of Lifeの時期にある患者さんにおいては、疾病管理や患者の生活の継続の両方を支える必要があります。そのためには食形態、座位姿勢、介助方法、口腔機能管理、栄養管理、リハビリテーションなどに対する多面的な医療と介護の連携、すなわち多職種協働が求められています。

近年、高齢化の進むわが国において摂食嚥下障害は大きな問題となっています。老化に伴う咀嚼能力の低下、唾液分泌の減少、咽頭の閉鎖不全と食道入口部の開大不全などが、高齢者の咀嚼や嚥下能力に大きな影響を及ぼしています。当院では摂食嚥下障害の治療をチーム医療として取り組むべく2004年に嚥下委員会を立ち上げました。今年で13年目になります。嚥下委員会は、総合診療科医師、整形外科医師、耳鼻咽喉科医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、調理師、歯科衛生士で構成されています。多職種で摂食・嚥下機能障害に関わり、それぞれの専門性を発揮しながら治療に取り組んでいます。主に誤嚥性肺炎で入院されている患者さんの摂食・嚥下機能評価や訓練に携わることが多いのですが、その他の摂食・嚥下機能障害の患者さんにも対応しています。また、地域の先生方から摂食・嚥下機能障害の患者さんを歯科口腔外科外来にご紹介いただくこともあります。



嚥下チームカンファレンス

今回の地域医療連携だよりでは、当院でどのような取り組みを行っているかご紹介させていただきます。当院は地域完結型医療を目指しており、この地域で「より良い最期」を迎えるために必要なことを考え続けることが地域完結型医療を成し遂げるために最も必要なことの一つであると思っています。地域医療を担っておられる医療関係者の皆様の後方支援を行うために何が必要なのか？皆様に当院嚥下チームの取り組みについて知っていただき、今後の当院での活動のあるべき姿についてご指導いただくと幸いです。

## ◆嚥下チーム取り組み紹介

### 摂食嚥下障害患者さんの口腔ケア

歯科衛生士 長谷川 博美

摂食嚥下障害は高齢者や脳梗塞後遺症の患者さんが多く、自己にてブラッシングが不可能な場合が大多数です。また食べられないことで栄養状態が悪くなったり、肺炎により酸素吸入を行っている患者さんの割合も多いです。必然的に、口腔乾燥や口腔汚染がみられます。

歯科衛生士は、歯科医師の指示のもとブラッシング、歯間ブラシ清掃、舌苔（舌の痂皮）の除去、口腔清拭、口腔内の保湿、口唇の保湿を行います。口腔管理が難しい患者さんに対しては、看護師に口腔ケアの指導を行い、患者さんの口腔管理をします。

近年肺炎予防に口腔ケアは重要だといわれています。口腔ケアを行うことにより口腔細菌の数を減らし感染予防に寄与することはもちろん、口腔ケアの行為自体が口腔機能への刺激に繋がり、摂食嚥下訓練の役割も兼ねることになるのです。

私たち歯科衛生士にとって口腔ケアは口腔衛生状態の改善を目指すだけでなく、口腔機能の維持・向上を図り、口から食事を摂ることを支援することだと考えます。



### 飲み込みの訓練

言語聴覚士 田邊 信彦

私たち言語聴覚士は当院に5名在籍しております。言語聴覚士とはリハビリテーション職のひとつで、肺炎や脳卒中の患者さんに嚥下訓練（飲み込みの訓練）や言語訓練を行います。嚥下チームでの役割は、昼食時の嚥下回診やVE検査（耳鼻咽喉科医師による嚥下内視鏡検査）・VF検査（バリウムの入った食事を食べていただく嚥下造影検査）に参加して、患者さんの評価に関わること、飲み込みの筋力トレーニングや、実際の食事食べる訓練を行うことです。また、3食通して安全に必要なエネルギーを摂取できるように病棟看護師と連携します。この他に、退院前カンファレンスに参加して、食事介助の方法や嚥下訓練の方法について情報提供を行い、在宅や施設につなげます。

当院の嚥下評価の特徴は、ほぼ全例に、VE検査とVF検査を両方実施していることです。通常は、一方の



みで評価されることの多い検査ですが、それぞれに得意不得意があり、VE検査では唾液の誤嚥がわかる、VF検査では患者さんに合った食事姿勢や食事形態を決めることができるという特徴があります。むせが頻繁に出て、唾液や食べ物が気管に入りやすい患者さんでも、食事姿勢や食事形態を調整することで、むせずに安全に食べられることも多いです。また、栄養状態を管理した上で、筋力トレーニングや、食べる訓練を行うことで、嚥下機能も改善してきます。私たち嚥下チームでは、患者さんの嚥下状態を正確に判断することにより、より効果的な嚥下訓練を行っています。

外来でも摂食嚥下障害の診察を行っております。入院患者と同様にVE検査・VF検査を実施し、自主トレ指導や通院での嚥下訓練を行うことができます。飲み込みが悪くてお困りの方がいらっしゃいましたら、歯科口腔外科が窓口になっておりますのでご紹介ください。



### 摂食嚥下障害と嚥下調整食

管理栄養士 安東 恵美

摂食嚥下障害は食物の誤嚥や窒息のリスクを高めるだけでなく、十分に食事が摂れないことでQOLを低下させたり、低栄養を招いて感染症の罹患率を上昇させたりと、心身の健康に様々な悪影響をもたらすことが問題となっています。

摂食嚥下障害においては、食事の温度や風味、量、食

物の物性などの要素が嚥下反射の誘発や飲み込みの難易度に影響します。食物の物性は主に「固さ・付着性・凝集性」が関わっており、筍やゴボウ、タコやイカのように固く噛み切りにくいもの、海藻や餅のように口内に張り付いたりベタつきやすいもの、そばろやナッツ類のように口の中で広がったりバラつきやすいもの等は食塊形成が難しく、嚥下しにくい食品に分類されます。

摂食嚥下障害がある方には、こうした食品を避けたり、調理方法を工夫して食べやすい形態に調整した食事（嚥下調整食）の提供が勧められます。一人ひとりの障害の種類や程度に応じて適切な形態の食事を選択することが重要です。

当院でも、嚥下調整食の基準である「学会分類2013（摂食嚥下リハビリテーション学会）」に基づいて食形態の見直しを実施し、今年8月より嚥下調整食の一種である「刻み食」の一部の形態について、ゲル化剤を用いて再形成したものを導入しました。新しい食形態の導入により、今まで刻んだ食品にかけていた醤油味のあんがなくなり、料理の味付けの種類が豊富になりました。また、実際に喫食された患者さんからも食事の外観や風味がより良くなったとの意見をいただくことができました。

摂食嚥下障害がある方にも口から食べる楽しみを感じていただけるよう、今後も多職種と協力して安全かつ美味しい食事の提供に努めていきたいと思っております。



（食事調整剤）蒸し鶏のオーロラソース、さつまいも、ブロッコリーのオーロラソース

## ◆肺の日イベントを開催しました

肺の日は、1999年に日本呼吸器学会が制定したもので、「は（8）い（1）」（肺）の語呂合わせからきています。近年は、喘息や肺疾患などが増加しており、在宅酸素療養者も16万人（2012年現在）、また、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の患者予備軍は約500万人以上いるといわれています。肺の日は、このような呼吸器疾患についての情報を伝えるとともに、肺の病気の早期発見とタバコの害などの知識の普及と禁煙の啓発を目的としています。

当院では、今年は8月4日に『肺の日』イベントを開催しました。通院患者さんやそのご家族の方など、約30名の方が参加してくださいました。禁煙に関心がある方が多くおられ、「治療上、禁煙をしなくてはならないと言われているがやめられない!」といった相談もあり、医師・看護師・薬剤師・理学療法士などがアドバイスをさせていただきました。

「以前は喫煙していたが、今はやめたから病気にはならない」と思っておられる方も何人かおられ、喫煙歴が病気の発症に影響していることをお伝えし、体調管理が大切であることをお伝えしました。

COPDは、タバコの煙に含まれる有害物質が肺の奥まで侵入し、肺泡が壊れたり、空気の通り道である気管が炎症を起こし、むくんで狭くなり、息苦しくなってきます。高齢に伴い発症することが多く、その間の進行が穏やかなため発見が遅くなることもあります。これ以上、患者さんを増やさないためにも、少しでも多くの方にCOPDという病気のことを知っていただき予防できるように、今後も啓発活動を続けていきたいと思っています。



## ◆医師体験ワークショップが開催されました

平成29年7月30日に湖北医師会主催の医師体験ワークショップ2017を、市立長浜病院で開催しました。湖北地域の医師を増やすために、10年以上先を見据えた遠大な計画です。湖北を中心に中学2年生から高校2年生までの学生23人が参加し、腹腔鏡体験・切開縫合体験・心エコー、救命・問診面談の4つのブースで体験しました。協力スタッフは総勢55人でした。「医学部に入れるように勉強を頑張りたいです」との体験後メッセージに感激です。

